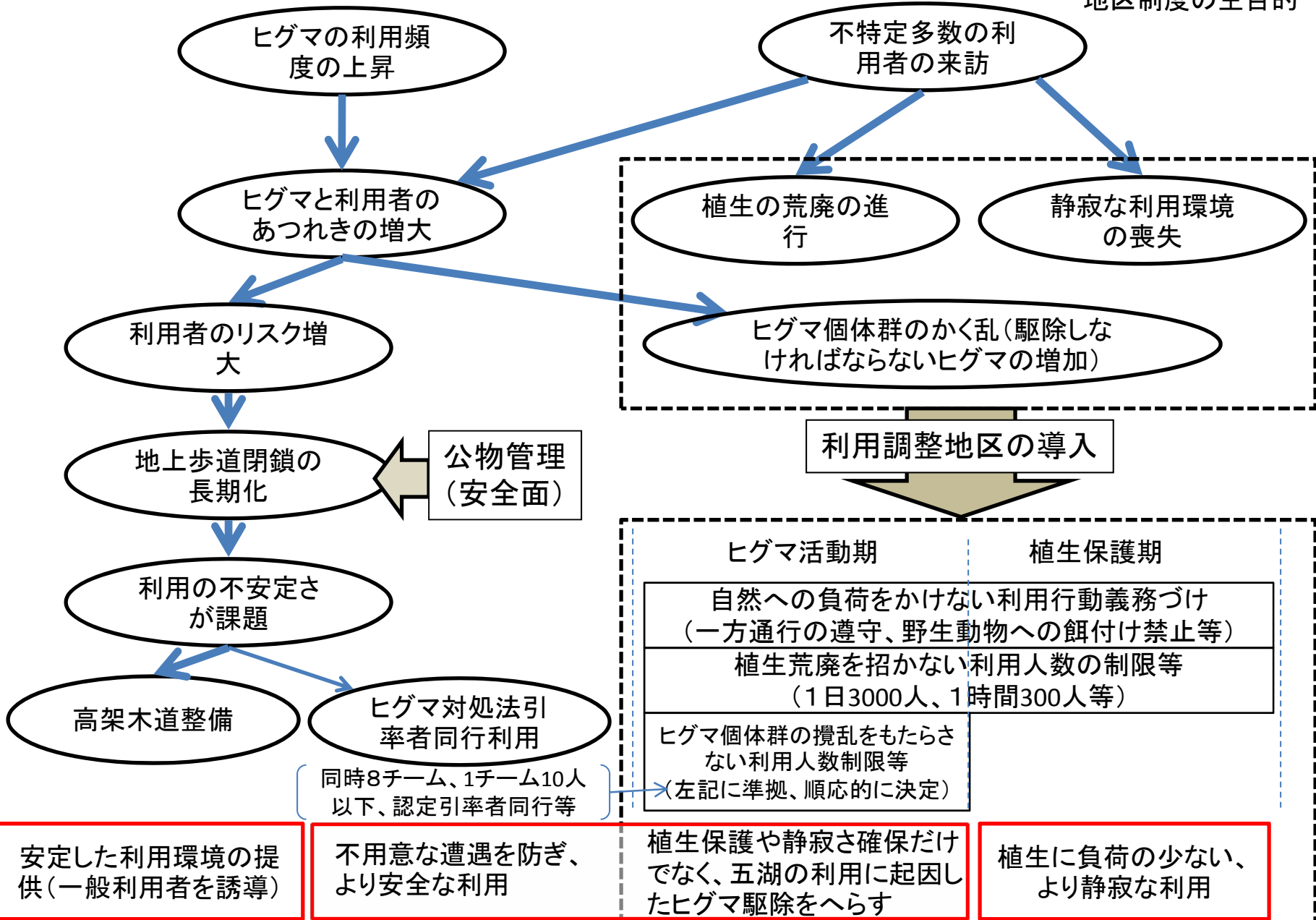


知床五湖利用のあり方協議会での検討事項

点線枠内が利用調整
地区制度の主目的



ヒグマの利用頻度の上昇

不特定多数の利用者の来訪

ヒグマと利用者のあつれきの増大

植生の荒廃の進行

静寂な利用環境の喪失

利用者のリスク増大

ヒグマ個体群のかく乱(駆除しなければならぬヒグマの増加)

地上歩道閉鎖の長期化

公物管理(安全面)

利用調整地区の導入

利用の不安定さが課題

ヒグマ活動期

植生保護期

自然への負荷をかけない利用行動義務づけ
(一方通行の遵守、野生動物への餌付け禁止等)

植生荒廃を招かない利用人数の制限等
(1日3000人、1時間300人等)

ヒグマ個体群の攪乱をもたらさない利用人数制限等
(左記に準拠、順応的に決定)

高架木道整備

ヒグマ対処法引率者同行利用

同時8チーム、1チーム10人以下、認定引率者同行等

安定した利用環境の提供(一般利用者を誘導)

不用意な遭遇を防ぎ、より安全な利用

植生保護や静寂さ確保だけでなく、五湖の利用に起因したヒグマ駆除をへらす

植生に負荷の少ない、より静寂な利用